

## V. 腹腔鏡下手術について

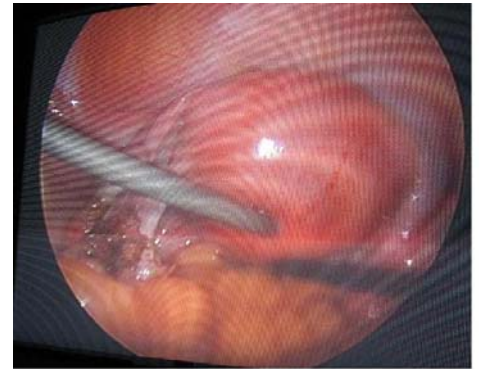


腹腔鏡は内視鏡の一種で最初、腹腔内の病気の診断に使われておりました。10年くらい前から腹腔鏡を使った手術が普及し始め、最近では腹腔下手術用機器の進歩と体に負担の少ない手術を求める傾向とあいまって広く行なわれるようになって来ております。

腹腔鏡下手術とは炭酸ガスをいれてお腹を膨らませ、5 mmから 10 mmの穴を数箇所あけて腹腔鏡や器具を挿入してお腹を切らずに手術をする方法です。TV 画面をみながら小さな穴を通して手術操作を行ないます。

このため手術器具にはいろいろな工夫がなされています。たとえば、無血切除するという操作にも電気メス、レーザーメス、超音波メスなどが有り、結紮縫合などの止血操作にも吸収性クリップ、吸収性ループ、腹腔鏡用縫合器、自動縫合器とさまざまな器具が揃っています。

また、摘出した子宮や筋腫や卵巣嚢腫をお腹の中から取り出すために子宮を腔から引き抜いたり、筋腫を砕いたり、卵巣嚢腫の中身を吸引して縮小したり、回収袋に入れて小さな穴から引き抜いたりします。



しかし、腹腔鏡手術にはおのずと限界があります。悪性の疑いがある場合や強度の癒着がある場合や腫瘍が大きすぎる場合などは適応となりません。また、開腹手術に比べ手術操作上の制限があるため、手術途中から開腹手術に移行する場合があります。

### 腹腔鏡下手術の利点、欠点

#### 利点；

- ① 拡大されるため開腹手術では見づらい部位が良く見える。
- ② 術後の痛みが少ない。
- ③ 入院日数も短く社会復帰が早い。
- ④ 美容上良い。

#### 欠点；

- ① TV 画面を見ながら手術するため操作上の制約があり適応疾患に限られる。
- ② 開腹手術より手術時間が長い
- ③ 強度の癒着や腫瘍が大きすぎるなど途中から開腹手術に移行する場合があります、どんな手術にでも対応できるわけではない。

### 腹腔鏡下手術が可能な疾患

腹腔鏡手術の種類には、腹腔鏡を使って手術操作のすべてをお腹の中で行う腹腔鏡下手術と手術操作の一部に腹腔鏡を使って行なう腹腔鏡介助下手術があります。

腹腔鏡下手術；子宮外妊娠，子宮内膜症，癒着剥離，卵巣嚢腫など

腹腔鏡介助下手術；子宮筋腫核出，腔式子宮全摘出，卵巣嚢腫など